

令和6年 観星楼書道篆刻研究院 篆刻月例課題および研究会日一覧

課題 [小林斗盦に学ぶ] (小林斗盦：1916年2月23日～2007年8月13日) 日本の書道家・篆刻家。埼玉県生まれ。本名庸浩、号は斗盦(斗庵)。元全日本篆刻連盟会長。篆刻家初の文化勲章受章者。勲三等瑞宝章。河井荃廬、西川寧に師事。

| 月 | 月例課題 | お稽古日 | お稽古日 |
|----|--|---------------------------------|---------------------------------|
| 1 | 「八龍並出」 [趙之謙の句] [趙之謙の句] | (月) 1 / 15 29 (水) 1 / 17 31 | (木) 1 / 4 18 (土) 1 / 13 27 |
| 2 | 「八龍並出」の側款 一九八八年、歳次は戊辰。西冷印社、龍の字が ^{ちりば} 嵌められた印千顆を集めんと ^{はか} 擬る。五月の吉辰(吉日)に千龍印会を挙す。わが邦、日展篆刻家の ^{ようしゅう} 邀集の百印を獲し、其の盛を ^{さんよ} 参預す。因りて、此の四字を ^{えら} 摘び印に入れて以て雅命に ^{しる} 応ず。戊辰三月斗盦、懐玉印室において識す。 | (月) 2 / 5 19 (水) 2 / 7 21 | (木) 2 / 1 29 (土) 2 / 10 24 |
| 3 | 「秉彝」 [『詩経』大雅・烝民] 彝を乗る 彝はつね、のり | (月) 3 / 11 25 (水) 3 / 6 27 | (木) 3 / 7 21 (土) 3 / 9 23 |
| 4 | 「秉彝」 識語 民の秉彝、是の懿徳を好む。詩 大雅・烝民に見る。 丁卯孟冬、斗盦、師荃廬に於いて刻す。 | (月) 4 / 8 22 (水) 4 / 3 17 | (木) 4 / 4 18 (土) 4 / 13 27 |
| 5 | 「獨往」 [『莊子』在宥] 独り往く。 | (月) 5 / 13 27 (水) 5 / 1 15 | (木) 5 / 2 16 (土) 5 / 18 25 |
| 6 | 「獨往」側款 獨往己卯重九斗盦刻于尚古書屋 ※ 重九は9月9日のこと | (月) 6 / 10 24 (水) 6 / 12 19 | (木) 6 / 13 20 (土) 6 / 15 29 |
| 7 | 「善逸身者不殖」 『列子』・楊朱 善く逸身する者は殖せず 上手に身を安楽にするものは利殖に励もうとはしない。 (識語) 此れ戦国巨鉢に仿う。跌宕の致、未だ ^{およ} 逮ばず。其れ百一にして恨むべき ^は 慙ずべきなり。語は列子楊朱に見る。 斗盦并記す。乙丑秋十月十六日。 | (月) 7 / 8 22 (水) 7 / 3 17 | (木) 7 / 4 18 (土) 7 / 13 27 |
| 8 | 「素王之鉢」 ※ 素王とは無冠の王 | (月) 8 / 5 26 (水) 8 / 7 21 | (木) 8 / 1 15 (土) 8 / 10 24 |
| 9 | 「素王之鉢」側款 王者の道有りて王者の位無き者曰く素王。孔子、尊ばるに至聖先師と為す。玄聖素王の称も有り。我が邦、古来亦た孔聖を尊崇す。惟うに中国の毛沢東時代、批孔運動の有る ^{きわ} 竟まるも毛氏歿後、数載にして尊孔恢復す。余、之を聞きて大いに喜ぶ。因って此の印を刻し以て之を紀す。戊辰元旦斗盦、星陵の懐玉印室に於いて識す。 ※数載は数年。 | (月) 9 / 9 30 (水) 9 / 4 18 | (木) 9 / 5 19 (土) 9 / 14 28 |
| 10 | 「邯鄲學歩」 『莊子』秋水 邯鄲は戦国時代の趙の都。燕の田舎に住む若者が邯鄲に行き、町の人々の歩き方を真似したが、それが身につかないうちに故郷での歩き方を忘れてしまい、腹ばいになって帰ってきたという説話。本来の自分を忘れて、やたら他人の真似をしたために両方ともうまくいなくなるたとえ。 | (月) 10 / 7 28 (水) 10 / 2 16 | (木) 10 / 3 17 (土) 10 / 12 26 |
| 11 | 「象帝之先」 [『老子』第四章] 帝の先に象たり。(万物を司る天帝のさらに祖先であるようだ。) | (月) 11 / 11 25 (水) 11 / 6 20 | (木) 11 / 7 21 (土) 11 / 9 30 |
| 12 | 「蛟龍隱文章」 蛟龍、文章を隠す。 文章とは内面の徳。 蛟龍は水中に棲息し、雲雨に出遭うと天に昇って龍になるとされる。 | (月) 12 / 9 23 (水) 12 / 4 18 | (木) 12 / 5 19 (土) 12 / 14 28 |
| 共通 | 小林斗盦篆書千字文の習字および自由創作作品 | | |

- 今年のテーマは昨年に続き《小林斗盦》の作品研究です。
- 「篆書千字文」(二玄社 小林斗盦著)については、毎月1頁を半紙に練習し、1～2枚選んで持参してください。但し、なれない段階では各頁1行ずつ半紙4字書きで習っても良い。
- 字典は手書きのものを避けること。(特に、字例が僅かで限定的で出典も明記していないものを避ける)

観星楼書道篆刻研究院篆刻 令和6年課題一覧

《テーマ：生誕百年記念「小林斗盒篆刻の軌跡」の篆刻表現》

摹刻か模写、または表現を変えた創作

| 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|
|  <p>八龍並出</p> <p>やや縮小</p> |  <p>「八龍並出」の側款</p> |  <p>秉彝 白文で創作</p> <p>やや縮小</p> |
|  <p>秉彝 「詩経 大雅・烝民」</p> |  <p>獨往</p> <p>やや縮小</p> |  <p>「獨往」側款</p> <p>やや縮小</p> |
|  <p>善逸身者不殖 「列子・楊朱」</p> <p>やや縮小</p> |  <p>素王之鉢</p> |  <p>「素王之鉢」側款</p> |
|  <p>邯鄲學歩</p> |  <p>象帝之先</p> |  <p>蛟龍隱文章</p> <p>やや縮小</p> |

○令和6年も昨年に引き続き《小林斗盒の篆刻表現》です。造詣の深さ、多彩な表現力を学びましょう。

○摹刻または模写をしてください。できれば同じ印文で独自の創作表現に挑戦してください。